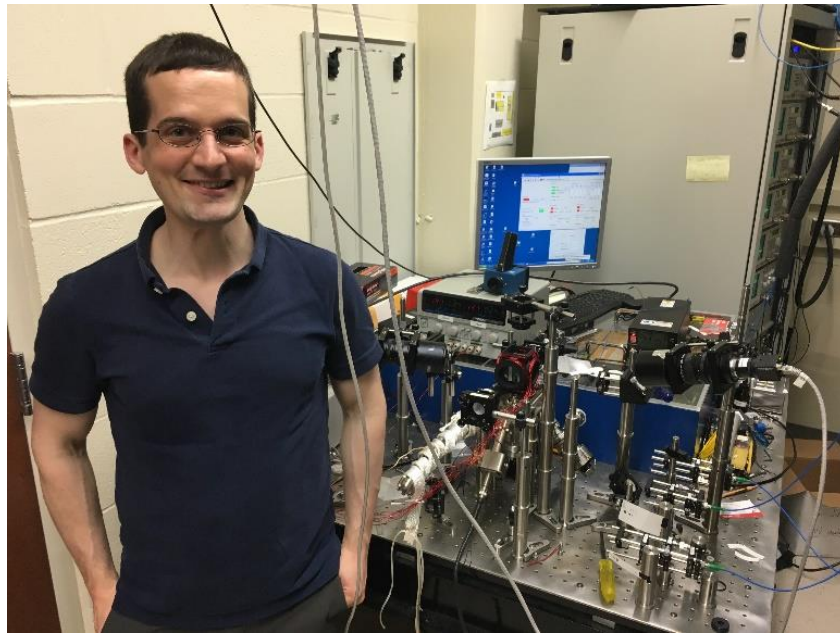


ウィスコンシン大学マディソン校での滞在を終えて

物理工学専攻 博士課程1年 高瀬 寛

2019年4月4日から7月2日の間、アメリカウィスコンシン大学マディソン校のマーク・サフマン教授のグループに滞在した。サフマン教授は中性原子を用いた量子情報処理分野における第一人者である。私は滞在した3か月間、量子ネットワークへの応用が期待されるキャビティ QED の実験に参加し、原子を輸送するレーザー光のアライメント機構や、その他の光学系の構築に携わった。滞後半には新規に MOT 系の構築にも関わり、普段東京の研究室では得られない多くの知識を得ることができた。

私生活においては、ラボのメンバーとの BBQ やサフマン教授とのテニス、休日を利用した旅行など、アメリカの文化を全身で体感することができた。アメリカの研究者はみなリラックスしたマインドセットを持っており、生活を楽しんだうえで研究でも成果を出していると感じた。この辺り、私自身学ぶ部分が多かったと思う。



共同で実験した Garrett Hickman 氏